

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

吉浦中学校区 校番 15 学校名 吉浦中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力	生徒が主体的に学習する授業づくりについて工夫改善を進め、学力を向上させる。	学力の向上を図る。  課題解決に向けて自ら調べ、考えようとする意欲を向上させる。	○第3学年は実力テスト、第1・2学年は標準学力調査の国語、数学、英語については、3教科とも全国平均を下回っていた。落ち着いて学習環境は維持できているが特に1年生の数値が低い。全学年とも、学力を向上させることが課題であると考え。  ○アンケートにおいて、課題解決に向けて進んで資料収集や取材する生徒の割合は59.3%、新出問題を解こうとする意欲をもつ生徒の割合68.4%と目標値を下回っていた。各教員の指導方法の工夫・改善や教科等の本質に迫る「考える授業づくり」等が意識された結果と考える。	○課題がある領域、問題について、課題分析を丁寧に行い、改善ポイントを明確にして、計画的継続的に改善ポイントを取り入れた授業を行う。また生徒に対して、授業外(長期休業期間や試験期間等)での個別指導を行うなどの指導の工夫をし、確実な定着を図っていく。  ○学習指導要領が全面実施になることも踏まえ、各教員が行っている教科等の本質に迫る「考える授業づくり」についてICTを活用した等、効果的な取組を全教職員のものとなるように、情報の共有化を図る。
** 豊かな心	道徳教育を充実させ、道徳的実践力を高める。	自尊感情、自己肯定感を向上させる。  協働できる力を向上させる。  地域のよさに気づかせ、郷土愛を育む。	○7月に学級集団や個について分析するためのアンケート(QU)を実施し、要支援生徒及び学校生活不満足群生徒の調査を行った。次回実施までに要支援生徒及び学校生活不満足群生徒の人数を3割減とする。  ○アンケートにおいて、「みんなで協力しあってよりよい学級や学校を作ろうとする生徒の割合」は87.8%と目標値まであと少しなので、これからも計画的な道徳・特別活動を実施していく。  ○アンケートにおいて、「自分の郷土のよさに気づき、その郷土に貢献したいと考える生徒の割合」が、72.8%と目標値を下回っていたが上半期としては高い数値であった。新型コロナウイルス感染症対策のため学校行事等が十分できていないが、引き続き、教科横断的に取り組んだ成果であると考え。	○不登校生徒・長欠生徒は昨年度より数値は低くなっているが、QUや教育相談により生徒や家庭の実態把握に努め、生徒支援及び学級づくりの取組に生かしていく。 ○生徒の様子をしっかり把握し、生徒への直接の感謝・評価の言葉かけ等を積極的に進めていく。 ○スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの組織的活用により家庭・関係機関との連携を充実させる。  ○構成的グループエンカウンターやソーシャルスキル等を計画的に取り入れ、学級集団づくりを行っていく。  ○カリキュラムマップを基に、特に総合的な学習の時間を中心に、道徳科、教科等の教育活動において、横断的かつ系統的に郷土愛の育成の取組を引き続き行っていく。また、実施後の振り返りを大切に、さらなる改善を図っていく。
* 働き方改革	教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境を整える。	生徒と向き合う時間を確保する。  長時間勤務の削減を図る。	○アンケートにおいて、「児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合」が、100%と全教職員が確保できているとの回答であった。業務の精選と共に教職員の働き方改革に対する意識が高まった成果と考えられる。  ○「時間外勤務が月45時間を超える教職員の月平均人数」は、上半期で3名と目標値を下回った。	○引き続き、教職員の改善に向けた意見を参考にし、できることを1つずつ確実に実施していくことで、教職員の参画意識を高めていく。  ○引き続き、タイムスケジュールを意識して、業務を行うように段取りや分担、完了予定日等をホワイトボードに表示し、進捗管理を行っていく、個々の意識改革を図っていく。